

市政だより むろらん

57. 11. 1

No. 543

室蘭市民憲章

- 1、健康で働き、明るく楽しい家庭をつくります。
- 1、老人をうやまい、子どもの夢をはぐくみ、あたたかい心のかまようまちをつくります。
- 1、自然を愛し、環境をととのえ、緑豊かなまちをつくります。
- 1、のびゆく港と、産業を育て、未来を開く希望のまちをつくります。
- 1、きまりを守り、教養を深め、文化のかおりあふれるまちをつくります。



ボールの行方に一喜一憂

スポーツ都市宣言
記念

市民ゲートボール大会

スポーツ都市宣言(10月10日)を記念して、初の市民ゲートボール大会が、老若男女約500人参加して、10月17日、栄高校グラウンドで行われました。

この日は、青空の広がる絶好のスポーツ日和。午前8時30分開会式後、Aクラス(60歳以上39チーム)とBクラス(年齢制限なし15チーム)に分れて、縦20m横25mに線引きされた8コートで熱戦を繰り広げました。

試合は、練習量を誇るお年寄りはハイレベルな戦いを。対して、青年・成年組は、数日前に初めてスティックを握った人など、ボールの行方はあなたまかせ。もっぱら親善に重点を置いた試合展開。準決勝で敗退した主婦チームの高松恵子さん(29)は「もろろん、優勝をねらってききましたが、まだまだ練習不足かな。来年こそは」と、ゲートボールの魅力に取りつかれたよう。ボールの行方に一喜一憂する歓声が、グラウンドいっぱい、こだましていました。

開港110年市制施行60年記念論文・作文

小野由美子さんと 平林正一さんが入選

開港110年市制施行60年を記念して、郷土室蘭の発展について募集しました「作文・論文」の審査がこのほど終わり、10月13日、市役所で表彰式が行われました。

公募には、小・中学生の部7件、大学生・一般の部6件の計13件が寄せられました。報道機関、市議会、市教委などから選出した審査員5人による厳正な審査の結果、小野由美子さんと平林正一さんが各部門で入選、また佳作として高橋美鈴さんら4人が選ばれました。

小・中学生の部 入選



港北中2年 小野由美子

開港110年・市制60年、鉄のまち、港のまちとして栄えてきた室蘭。その室蘭が今日になるまでには、どんなに多くの人々の犠牲があったかを私達は決して

私達の郷土 これからの室蘭

- 4人が選ばれました。表彰式では、一人ひとりに岩田市長から表彰状と記念品を贈りました。
- ◎入賞者は次のとおりです。(敬称略)
- 小・中学生の部
 - 入選 小野由美子(港北中2年)
 - 佳作 高橋美鈴(知利別小5年)
 - 栗原みちる(港北中2年)
- 大学生・一般の部
 - 入選 平林正一(70歳社員 中央町2-18-9)
 - 佳作 三村美代子(46歳 教員)



表彰式で

敷かれました。そしていよいよ明治42年には、今の新日鉄(製鉄所)が活動開始され、明治44年には、日鋼(製鋼所)も動き出しました。これが今の室蘭工業の発端だといえるのかもしれない。人口も少しずつ増え、大正11年には、5万2千158人の人口で市になりました。現在、人口は約15万人ですから、この60年間に約10万人も増えたという事になるのです。これは驚くべき発展だといえるのかもしれない。

さて、私達室蘭市民は、今までの発展を源に、より良い方向に突き進んでいかなければなりません。そのためにはまず、工業都市として栄えてきた室蘭の長所と短所を見つめ直す事が大事ではないでしょうか……。

モルエランの名にも表われているように、室蘭というまちは坂が多く、平地が少ないようです。でも、そんな地形にしてもどこもかしこもすべて舗装され開発として十分なところまでできているようです。私の父は自営業でブルトーザーなどの大型機械の運転をして働いていますがやはり室蘭は完全というところまで開発されているので、室蘭での父の仕事はあまりおもしろくないようなのです。それに比べて苦小牧などは、日本の新しい国土開発を目ざした新全国総合開発計画の拠点となり、これからの大きな開発はみな苦小牧に目を向けられているようなのです。

この状況からしても、これからの室蘭を発展させていくには土地開発では無理だと私は思うのです。それに、この室蘭の美しい自然を破壊してまでも土地開発する必要は全くないと思います。

そうです。そこで真っ先に浮きでてるのは室蘭の自然です。この自然を利用すれば良いのではないのでしょうか。黒百合の花が咲き乱れる大黒島、岩石がむき出しになり自然の雄大さを誇るような銀屏風・地球岬・マスイチ浜・トッカリシヨ・測量山の展望・絵鞆岬の景観・そして室蘭港の夜景。この室蘭八景、これこそ室蘭を生かすべき自然ではないのでしょうか。この素晴らしい自然を室蘭市内の人達だけにとどまらせず、もっと内外にアピールすべきだと私は思うのです。

白鳥大橋にしても、同じ事が言えるのではないのでしょうか。室蘭は今、この白鳥大橋に大きな希望を抱いているようです。私自身も白鳥大橋もさることな

大学生・一般の部 入選

室蘭の歴史と
未来について



中央町 平林正一

旺昌ニ肝要ナルモノトス」開拓使、木土顧問ゼー・シ・クロールド。

がら、これからの室蘭がその夢の大橋によってどう変わっていくのか楽しみなのです。だから、この大橋も、ただの関東以北で最大の長大橋だけで終わらせてはいけません。この夢の大橋を通じて、室蘭の良い自然を強調し、見てもらうのです。そうすれば室蘭はもしかしたら、観光の面でも活躍できるようになるのかもしれないのです。この白鳥大橋で室蘭の未来が決定されるといっても決して過言で

室蘭の歴史

室蘭港・コノ港ノ北海道中、緊要ナル地位ニアルハ擬テ容レザル処ニシテ、速カニ、ココヨリ石炭輸出入ノ策ヲ設ケ貿易港トナス道ヲ開クハ実ニ全道商工ノ

はありませぬ。室蘭はこれからも「鉄のまち」「港のまち」として、活躍を見せることでしよう。また、さらに「自然のまち」「観光のまち」としても発展していくのかもしれない。

これからの室蘭は、私達市民の未来でもあるのです。先人達の築いてくれた室蘭を皆で守り希望に満ちた大空に伸びる白鳥大橋のように大きく力強く前進させていきたいものです。

室蘭は深い入江を持つ天然の良港となる資質を持っている。陸地は丘陵部が海に迫り、僅かに残る平坦地は西部では（現市役所、武揚小学校付近）蛸沼を中心に沼沢、湿地帯で、人家が集まる場所は山あいを縫うわずかな盆地に限られていた。従って室蘭の開発は崖を削り、海を埋め、湿地帯を干拓して、道路をつくり、港を整備し工場を建設、市街地、住宅を造成して造られた港湾都市であり、室蘭生成発展の歴史の主脈となっている。

明治6年、開拓使次官黒田清隆、顧問ケブロンの強い意見により、函館―森―船便―室蘭―札幌に通ずる「札幌新道」を開通させ元室蘭より移住した者道路工事に従事した者など土着営業する者に一戸百円を貸し付け「新室蘭」造成に力を尽くした。

しかし、札幌新道は経済的に貨物輸送に適せず、総て函館―小樽―札幌の船便により、隣接の有珠方面の貨物も船便で函館に輸送し、室蘭は陸の孤島のような存在で、道路開通と共に将来の夢を抱いた商業者は次々と脱落し、貧乏を支えてきた互助組織「公益社」も明治17年、と

とう解散のうき目を見る始末となった。

それから3年後、「輪西屯田兵」が2回にわたり鳥取、愛媛など6県1千余名が、ワニシ、チリベツ原野に入地し、屯田兵舎が建てられ、室蘭住民は景気の上向きを期待し愁眉を開いたかに見えたが、何分地質の悪い荒蕪地、作物も十分稔らず、苦難の中で次々と鎌を捨て奥地へ転じ僅かに段丘地にいた人達が土地を守って居残るといふ悲運の結末となった。

ここで起死回生の活性剤が、北海道炭鉱会社による空知炭輸送目的の岩見沢―室蘭間鉄道敷設計画であった。

この情報を得て明治23年4月旅館業、本多新を総代とした住民300余名が「室蘭港民立熱望主意書」を草し、祝津からイトソケレップ（現御崎町）に至る臨海線43万坪余の埋立許可を請願した。北炭の鉄道敷設に伴う商業地、住宅地の造成にあつたが、結果は4万坪の埋め立て許可を得た。住民はこれにより明治25年12月、石山下（現長崎屋中央店付近）地先臨海浅瀬5千307坪を埋め、宿望の一部をみたすことが出来、この地が旧称千歳町となり、室蘭港民間埋立の嚆矢となった。

北海道炭鉱鉄道会社は明治25年8月、岩見沢―室蘭（輪西）間の鉄道を開通させ、イトツケレップに石炭積み出し施設を造り、自社炭の移輸出を始めた。更に、軍用地問題が解決し同年7月、現入江地区に石炭積み出し施設造成のため前記民間埋立地先6万6千余坪を埋め立て内5千坪余を町に無償提供し、海岸町が生まれた。

一方、絵鞆、小橋内臨海線は遠山満、栗林、三菱などにより埋め立てられ、残るトキカラモイ（緑町、港町地先）は鉄道院室蘭町が埋め立て、室蘭駅、物揚げ場、貯炭場、旅客棧橋が造成され、室蘭西部はその後、高架棧橋、埠頭、防波堤などの港湾施設が整備され、全道に冠たる国際貿易港として飛躍した。

試みに室蘭、小樽両港の石炭輸出額を較べると明治25、26年は室蘭は零であったものが明治29年に至り室蘭5万9千ト、小樽3万2千トと逆転し仕向け地はインド、上海、香港、米國、カナダ、濠州と米人顧問クロールドの予見通り、太平洋岸の立地の好条件を如実に示した。

明治39年、政府は日清、日露両戦役の経験で国内幹線鉄道は國の持ちものにして、有事の際兵員、軍需品を作戦に副つて円

滑に運営しなければならぬと
し、国有鉄道法を同年10月1日
議会を通し、全国幹線鉄道17路
線を選び、国有として買い上げ
た。北海道炭鉄道会社も、そ
の所有する鉄道及び室蘭港頭石
炭荷役設備を含め買取され、北
海道炭鉄道会社は「鉄道」を
「汽船」と入れ替え、北海道炭
鉄道会社とし本社を室蘭町に
移した。同社は、ここで得た剩
余金の使途につき、会社実力者
専務取締役、井上角五郎は自社
炭の有効な消化策として、製鉄
業を起す考えを持ち、自ら砂
鉄、鉄鉱区の権利を取得してい
たが海軍、政府要路の説得によ
り、日英合弁の民間兵器工場の
創立を優先させた。

西駅、室蘭ガス会社間の地先）
低湿地帯、総面積3万5千200坪
で工事は地盤が悪く、完成まで
時日を要し、明治42年7月18日
やっと熔鉄炉の火入れ式が行わ
れ50トの鉄鉄を得た。
以上で崖を削り海を埋めて道
路、市街地、住宅、石炭積み出
し、重工業を創り上げた明治期
の室蘭港生成第1期の歴史を略
述した。

この基盤が作動し大正、昭和
期に至り、製鉄所は国策会社日
本製鉄所輪西製鉄所として、ア
サリ浜仲町一帯を埋め立て、工
場敷地70万余坪の膨大な鉄鋼一
貫工場が日中事変拡大と共に出
現した。

残る東部地区は町域に入り昭和
3年9月、長輪線（現室蘭本
線）の開通前後、本輪西地先に
中卯ふ頭、栗林ふ頭が造成され
臨海部は倉庫群、貯木場として
整備された。

東部の平坦湿地帯は日鋼東町
社宅、日鉄中島社宅、鉄道用地
を除くほか太平洋戦争終戦まで
僅かな民家が散見する狭い室蘭
地域に残された「未開地」であ
った。

戦後、日本経済の成長期「特
定重要港湾」として重化学工業
都市、国際貿易港として室蘭は
世界を舞台にして飛躍した。

室蘭の展望

室蘭港は全道に冠たる完成さ
れた商工業港である。港の欠点
であった西風による三角波を防
ぐ外防波堤が完成し、港内の懐
が広く大型船の接岸可能な新日
鉄ふ頭を始め専用ふ頭67バース
公共ふ頭、中央ふ頭、西1号ふ
頭等45バースを持ち、港内臨海
部はすべて船舶の接岸を容易に
している。

しかし、この優秀な施設が、
いわゆる昭和48年のオイルショ
ック以来、日本経済は高度成長
期を脱し、基幹産業である鉄鋼
造船など構造不況にさらされ、
関連企業と共に体質改善を行
量より質と、収益の効率化を図
った。これに依り、室蘭港も取
り扱い貨物の通減現象が起り、
これに拍車をかけるように道央
に近く、立地条件のよい人造港

苦小牧が室蘭の領域を蚕食する
状況になってきた。

これに追い打ちをかける形勢
が熟しつつあるのが石狩港新港
の築造である。去る8月11日第
1船がソ連から北洋材5千トを
積んで入港した。同港の発想は
スウェーデン企業の誘致を目的
とし、道央の木工メーカーとの
提携にあるといわれ、築港計画
の3分の一が出来て、第1船を
迎えた訳である。伝えられると
ころに依れば、石狩工業団地に
は既に150社が用地を取得し、う
ち61社が操業を始めている。更
に、卸団地の物流部門も着々軌
道に乗り、石狩港にかけると期
待は逐次広がっている。

これは道央に近い立地条件で
室蘭をしのぎつつある苦小牧港
より、更に立地条件に恵まれた
石狩港が将来ほかの港と機能分
担するとしても経済的に全く比
較にならない石狩港の存在は今
後、北海道港湾史に新しいペー
ジが加えられると予測するのも
過言でないと思われる。

この関頭に立って、全道一の
設備を誇る室蘭港はその発想を
如何に転換するか、目下の急務
である。

室蘭市の企業誘致に応じて、
室蘭港埋め立て地区を視察した
企業家の大部分は地価問題、そ
の他で現状ではあまり期待が持
てないのが実情である。

この厳しい日本経済転換期に
あって、いかに設備がよくとも
絶対値である立地条件では安易
な見透しは許せない。
が、現実には企業のため用意
した埋め立て地は、金利の高む
ことを考えればこのまま放置で
きない。

もともと、臨海地帯に張りつ
く企業は塩害などを考慮し、精
密工業、先端工業などには向か
ないので、やはり装置工業、基
幹産業向きとなる。しかし一方
羊蹄山麓から伊達市までの豊富
で多種目の農畜産物の食品加工
工場は、張り付けの可能性を持
っており、現に畜産加工工場が
崎守埋め立て地区に着工の運び
となったのは心強い。

さらに、豊富で多様な水産物
に恵まれている噴火湾を控え2
次加工企業など、食品加工基地
としてその可能性をさぐる必要
がある。企業の誘致に暫定的で
あるが埋め立て地を遊休化しな
いため、賃貸契約も考えられる
民間が主導し宿年の悲願を達し
た苦小牧港の実績など学び取り
情報分析の豊かな室蘭の経済団



体、特に商工会議所、経済懇談会など室蘭の現況から緊迫感に徹し精力的に取り組むことを切望する。

一部には埋め立て地利用策として、レジャー産業、はては競艇場など唱える筋もあるが、この種施設は年間稼働日数が少なく借金に追い銭となるばかりでなく、貿易、工業港とし、可能

広域生活圏の振興

昭和36年7月、熊谷室蘭市長時代、市議会側より登別町に対し合併の打診を行った。

日本経済がたゆみない成長を続けつつあり、登別町が工業団地を造成し、観光と工業へ町の発展策を講じつつある折柄、室蘭側がこれを捉え、行政、経済税、福祉などにつき「室蘭と登別」と題する室蘭側を主体とした精細な現状分析の文書を作製登別側に提示した。これがかえって市理事者側および住民の反発を買い、加えて首長選挙、経済情勢の変化などで沙汰止みとなった。

地方自治体の合併はなかなか難しい。豊平川をはさんで自治体が分かれていた豊平町が、札幌市と合併するまで9年の歳月を要した。主因は住民感情のもつ

性を持つ室蘭港として筋が通らないう。

白鳥大橋が完成し、北海道中央縦貫自動車道路が室蘭港と連結すれば、その時点で、本来の重要港湾貿易港とし、視野を広げ「世界の室蘭港」として、納得のゆく官民による港湾振興施策を地道に積みあげてゆくべきである。

れである。

釧路市の鳥取町、旭川市神楽町、函館市の亀田など中に多少の短期に合併が成功したのは、いずれも被合併町がその市の衛星的コミュニティであったためと思われ。が、登別市と室蘭市の場合、都市性格が違い、広域機能を相乗し補完しあう筋は認めながらも、港と内陸の融合のため、市理事者、議会および地域住民への確かな説得力には相当の努力と時間を要するし、利害に敏感な住民感情を克服するのは難しい障壁が立ちほだかる。

ここで広域生活圏振興に関する計画が、合併に悩む地方自治体で能動的になってきた。室蘭も、登別、伊達各市を含

めて「室蘭圏」およびこの発想を展開し、3市および西胆振5ヶ町村を一九とした西胆振広域生活圏振興のため「振興協議会」が生まれた。

「湖と温泉、緑と太陽に恵まれ、バランスのとれた産業が躍動する魅力ある生活圏を創出するために」というのがキャッチフレーズで、域内、保険医療、社会福祉、勤労者生活、交通安全住居環境、生活環境、教育文化の振興および産業の振興を掲げている。

しかし、これ等のひたすら自治体は住民の声を吸い上げ、財政の許す限り自主的に実行されている。これを圏内住民の生活向上のため、医療施設、下水道の整備、ごみ焼却施設等の共同施設を造成するにしても僻地町村は負担金の得失を考慮し、これに應じられない事情を持つている。一事が万事、理想と現実とはあまりにも距離がある。ここで、室蘭と登別、伊達に絞って広域行政、振興計画の策定につき検討してみる。3市は都市発展のためいろいろの問題をかかえている。特殊医療施設水利用、じん芥処理、下水道の終末処理場、住宅改善、環境整備、交通そして産業の振興（農

水産物の加工施設の整備等）など行政と住民の意欲さえあれば3市協同で実現の可能性が高い。地方自治体には、この種の案件を審議する地方自治法があり協議会が設けられる。西胆振の場合でもこの法に準拠し協議会を設けたと思うが、案件処理の可能性の強い3市自治協議会がより現実性があると思われる。この場合でも、住民の総意を前提として行われるべきで住民の頭越しでは施策が破綻する。

人口減少をどう捉えるか

昭和42年12月、室蘭市は「室蘭市総合基本計画」を発表した。室蘭市内外の学者有職者が5年がかりで審議した集大成である。これによると都市形成の主幹となる計画想定人口は、昭和55年度に社会増、自然増を自乗し26万1千人と推定している。

日本経済が順調に伸び、停滞のない状況下にあった時期、企業の拡張、誘致が容易であると測定し算出されたもの、策定に異論があつたようだが、その時点でやむを得ない結論である。流動する世界経済、その上立つて日本経済のみが高度の成長率を示すのは無理であった。昭和40年代後期、50年代に入り

理想として3市合併が望ましいが、住民の声を忘れ、産業経済の相乗効果のみを考え、合併の声をあげるのには複雑な自治体の実情、選挙を考究すればあまりにも発想が短絡すぎる。合併は長い目で土壌づくりに専念しなければならぬ。そのため3市協議会活動を活発にし、合同運動会を催し、住民の交流をはかるのもひとつの考え方であろう。

日本経済は軌道修正に迫られた結果は企業体質の見直しであり縮小生産、高収益の転換である。住民基本台帳による昭和55年人口は、15万9千724人で、これを昭和50年に比較すると、6千908人の減少で、昭和45年の100分比で88・3%という激減である。この時期、隣接地登別市は124・4%増、伊達市は119・3%増、新興都市苫小牧は145・7%の激増を示している。室蘭の人口減につき、その要因として推察されるのは大凡次の通りである。製鉄業の体質改善による設備の更改、および高性能の新鋭工場（君津、大分）従業員の出

地元港湾関係企業の苦小牧進出、中小企業の転廃、持ち家志向者が地価の安い隣接地を選定、などが主なものである。

しかし市域81平方キロという狭い土地で、室蘭は相変わらず全道一の過密都市である。山を削って住宅は匍いあがり、湿地帯を埋めた地盤の悪い土地でも鉄筋の建物がどんと建ってゆく、室蘭岳山麓地帯、ほか緑地保存地区を除けば文字通り飽和状態にある。

人口減少は都市機能の低下とつながらない。室蘭は地形的に市街地、住宅分布が分断され、山間に沿って数百軒の住宅が密集しているところもある。いわゆる連珠体を形成している。従って「コミュニティ」活動をさかんにする素地を持っている。コミュニティという言葉はいろいろな人間の集団社会をいうのであって、地域社会だけを指すものではない。隣組、集落、住宅団地など人間の集団であり、それに住む人達は健康的で楽しい生活、人間の本性に合った一生を送りたいと願い、コミュニティ活動を行う。

室蘭の西部地帯は開発の歴史が古いだけに隣組、町内会活動には融和、協力が強く、人間臭さがみなぎっている。会社社宅

地帯と共存意識が強い。これが本来のコミュニティの基盤である。行政はこれらの声を吸いあげて、人間の本質に対応してゆくのだが人口が増えたとコミュニティに対する行政施設が増大し財政的に苦しまねばならない。

観光文化への指向

八幡宮祭典で賑わっている街を離れ、測量山展望台に立ったこの日、夏空が青く広がり有珠山の噴煙、遠く羊蹄の秀峰、近くには幌前の岬を距て白鳥台ニュータウンが細長く陽光に映え目の下には完成された室蘭港、入江地区の臨海公園と茶津山を背に、やがて運動公園として蘇



室蘭の場合、今後企業誘致等による人口の社会増を考慮しなければならぬが、既に蘭北台地開発の青図もあることだし、人口減を安易に肯定はしないが密度の濃い社会福祉行政を期待し人口の流動につき神経質になることはないと思うのである。

る鉄道用地を眺める。

展望台は、観光客であふれていた。地図を持って観光を楽しむ人もいた。テレビ局の前庭は車で一杯、室蘭ナンバーは2、3台くらい。帰路、増子浜に寄ったが、ここでも道の両側に車が並んでいた。

測量山の眺望は、観光室蘭の目玉商品のひとつ。外海の景勝を含め「室蘭八景」は観光客誘致の受け皿として十分であるがさらに加え、青少年科学館、民俗資料館、水族館、産業観光としての新日鉄などがあり、支笏洞爺国立公園の中間位置にある室蘭は、法人化された室蘭観光協会を核に、積極的な活動を期待する。

試みに観光客が多く利用される交通公社刊「北海道ガイド」には、室蘭は名所として説明書きのあるのは「絵鞆チャシ」測

量山」「地球岬」「南部陣屋跡」だけである。

交通公社等旅行社は、魅力ある観光ツアーを募集する。道南方面で室蘭観光の売り込みを観光協会が主体となり、旅行者に働きかけて欲しい。洞爺、登別両温泉側へ積極的な働きかけも必要である。宣伝パンフレットは、この方面へ集中的に配るべきである。

観光客誘致の受け皿ばかりでなく、室蘭市民の文化施設として、少々カネがかかるが年次計画として実現させたい提案がある。

第一は、青少年科学館の入江地区移転である。現在の科学館は街の中央部にあり、駐車場も限られている。入江地区に臨海公園、運動公園が造成されるのを機に市内外の青少年の集まる運動公園と連携して、余裕のある駐車場を持つ青少年科学館を建てる。

ここで、地元企業の協力を求めたい。特に、日本製鋼所は戦後、兵器工場から脱皮して平和産業の新しい分野を開発し、現在ではわれわれ生活面に密着した石油化学、一般化学用品の重機鉄構部門、医療診断用機器など優秀技術陣で完成させた。また、新日鉄の新鋭熔鋳炉への転

換、日石精製のプラントなど、その性能の模型を展示し、青少年の科学知識を向上させる。そのため、展示面積が広がる面で応分の資金援助を求めたい。現科学館は市民文化を培う場として、既に設立の機が熟し、図書館に間借りしている「文学館」に充てる。

また、スペースを工夫し「美術館」を併存出来れば理想的である。現科学館の裏手にある植物園、野草園は、市民の憩いの場として現在地に残す。

次に文学碑の建立である。明治、大正期に室蘭を訪れ、また働き場所として文学を残した人彦(旅役者)そのほか国木田独歩、野口雨情など、室蘭での文章を残している。これらを選択し、入江臨海公園、運動公園の一隅に建立することを年次をたてて検討して欲しい。

なお、茶津山の先端、元高架棧橋の裾で、土地の余裕があれば(あるいは若干海面埋め立てして)問題の水族館を移し、公社的組織で資金調達、運営する。これは青少年科学館、運動公園とセットし、観光開発の一助として観光室蘭のイメージをアップさせたいという発想からである。

昭和56年度企業会計決算

昭和56年度の企業会計（水道事業、病院事業、中央卸売市場事業、白鳥台開発事業）の決算について、このたび開かれた第3回市議会定例会において原案どおり認定されましたので、そのあらましをお知らせします。

水道事業会計

健全財政の維持に努力

56年度の水道事業は、健全財政維持のため、経費の節減と効果的の事業投資に努めました。

収支の状況については、収益的収支で1億6,713万4,036円の純利益を生じ、資本的収支では、2億4,790万6,786円の資金不足となりましたが、当年度損益勘定留保資金

と繰越利益剰余金で補てんいたしております。

56年度決算における水道事業の財政状態は、健全財政を維持しておりますが、今後とも、なお一層経営の安定と清浄な水の供給に努力をしておりますので、市民の皆様のご理解とご協力をお願いします。

〈業務のあらまし〉

給水人口	152,022人
年間給水量	17,416,639m ³
年間有収水量	14,264,979m ³

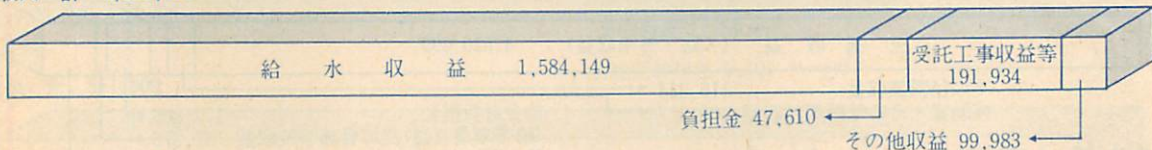
給水世帯数	49,176世帯
1ヵ月平均給水量	1,451,386m ³
1ヵ月平均有収水量	1,188,748m ³

〈収 支〉

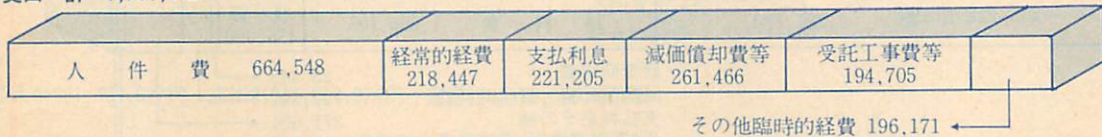
収益的収支

(単位 千円)

収入計 1,923,676



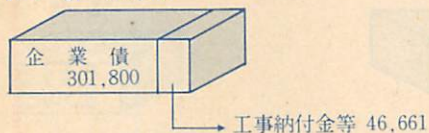
支出計 1,756,542



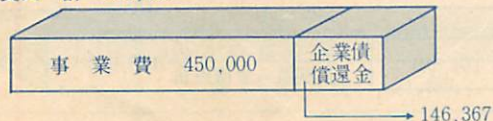
収入計1,923,676,422円－支出計1,756,542,386円＝差引 167,134,036円

資本的収支

収入計 348,461



支出計 596,367



収入計348,460,680円－支出計596,367,466円＝差引 △247,906,786円

病院事業会計

財政の健全化と医療福祉の増進に努力

56年度の病院事業は、経営健全化3年度目にあたり経営基盤である財政の健全化を図るとともに、高度医療器械器具の導入並びに院舎改修の整備など、病院機能の多様化と高度化に合わせた医療内容の充実強化を行い、公立病院として、その使命と役割を果たすべく努力して参りました結果、56年度決算は、収益的収支で収入が51億4,266万8,088円、支出が48億7,610万8,832円で、収支差引2億6,655万9,256円の利益を生じましたが、累積欠損金は、なお7億6,677万9,290円となっています。一方、資本的収支では、収入が3億8,293万8,000円、支出が5億8,600万9,688円で2億307万1,688円の資金不足を生じましたが、この不足額については、公立病院特例償還のための一般会計からの繰入金8,240万円と、当年度分損益勘定留保資金1億2,067万1,688円で補てんしております。

す。
なお、収益的収支における黒字の要因といたしましては、収入で多目的ガンマカメラの導入及び内科外来の一診増による外来患者数の増など内部努力を行ったことと、支出において、給与改定に伴う人件費の増嵩がありましたものの経常費等について極力その抑制に努めたことによるものです。

以上が56年度における決算の概況についてであります。今後とも引き続き経営基盤である財政の健全化を図るとともに、市民のための病院としてその要望にこたえるべく総合病院としての機能を十分発揮し、医療福祉の増進に努める所存でありますので、市民の皆様の一層のご理解とご協力をお願いします。

<業務のあらまし>

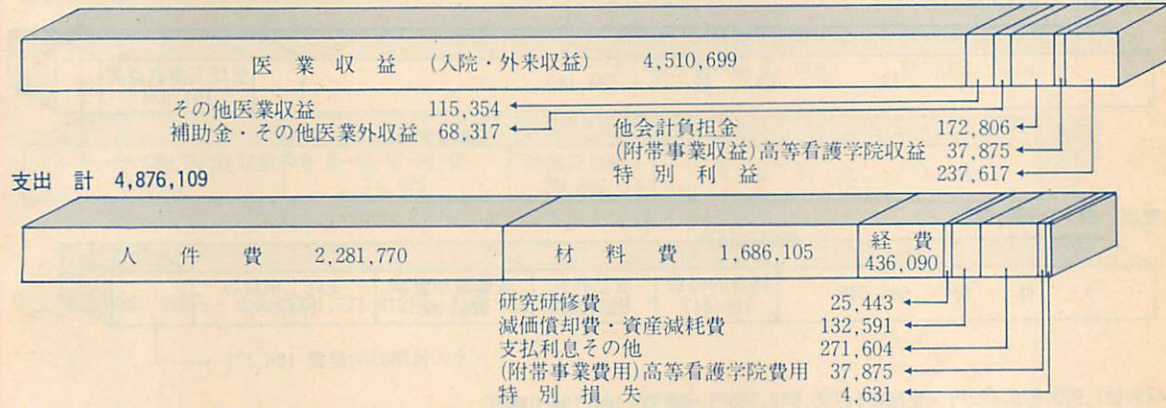
	本院	分院	計
年間入院延患者数	145,675人	65,255人	210,930人
〃 外来 〃	192,054人	9,269人	201,323人
一日平均入院患者数	399.2人	178.8人	578.0人
〃 外来 〃	642.2人	31.0人	673.2人

<収 支>

収益的収支

(単位 千円)

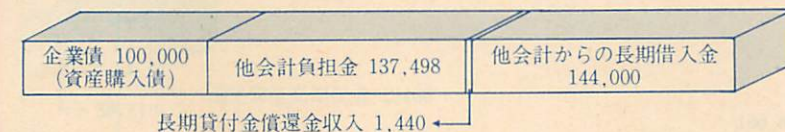
収入計 5,142,668



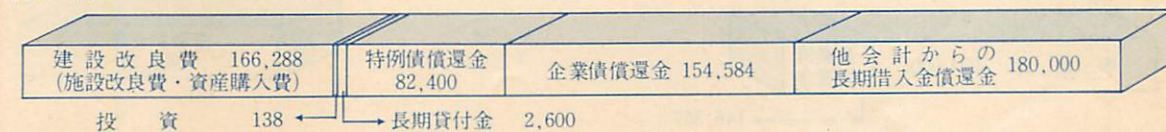
収入計5,142,668,088円－支出計4,876,108,832円＝差引 266,559,256円

資本的収支

収入計 382,938



支出計 586,010



収入計382,938,000円－支出計586,009,688円＝差引 △203,071,688円

白鳥台開発事業会計

住みよい環境と低廉な住宅地の分譲に努力

白鳥台開発事業の決算は、収益的収支で、収入が3億8,140万9,627円、支出が5億1,100万8,974円で収支差引1億2,959万9,347円の損失となりました。

一方、資本的収支では、収入が5万6,684円、支出では5,448万5,336円で、収支差引5,442万8,652円の資金不足を生じましたが、この不足額については、一時借入金で措置しました。

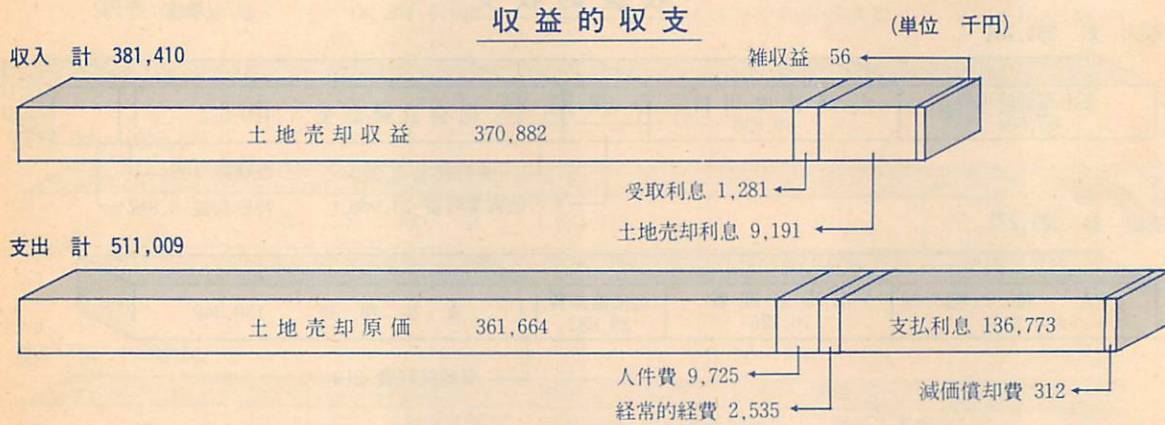
この損失の要因としては、低迷する宅地需要による宅地売却の伸び悩みと金利負担が大きいことなどによるものです。

長びく不況、厳しい経済情勢のもとにあります。今後とも住みよい環境と低廉な住宅地の分譲に努力して参りますので、市民の皆様のより一層のご理解とご協力をお願いします。

〈業務のあらまし〉

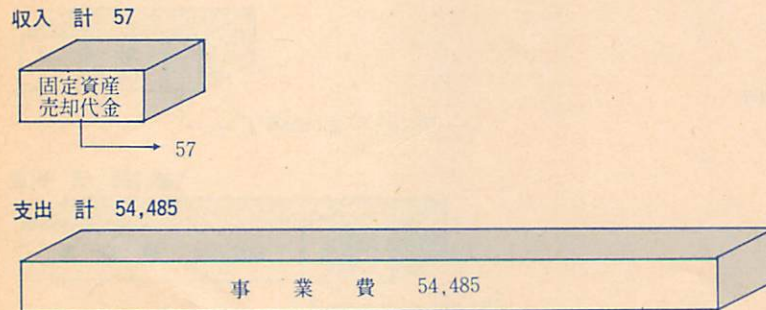
	個人宅地	集合宅地	計
分譲面積	12,657.47㎡	20,999.84㎡	33,657.31㎡
分譲金額	117,822,728円	253,058,989円	370,881,717円

〈収 支〉



収入計381,409,627円－支出計511,008,974円＝差引 △129,599,347円

資本的収支



収入計56,684円－支出計54,485,336円＝差引 △54,428,652円

中央卸売市場事業会計

単年度で 3,250万円の黒字

中央卸売市場の決算は、収益的収支で収入が3億5,378万908円、支出が3億2,127万1,812円となり、3,250万9,096円の純利益を生じました。

一方、資本的収支では、収入が3,878万3,854円、支出が7,263万5,133円で、収支差引3,385万1,279円の資金不足を生じましたが、この不足額については、一時借入金

で措置いたしました。

以上が56年度における決算の概要でございますが、今後とも市場としての公共性を維持し、市民に対する生鮮食料品の需給安定と円滑かつ計画的な市場運営を図るため、なお一層の努力をして参りますので、今後とも、ご理解とご協力をお願いいたします。

〈業務のあらまし〉

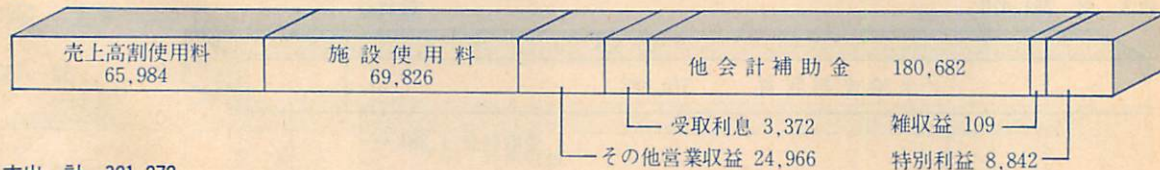
	青果部	水産物部	合計
取扱数量	48,147,106kg	26,175,456kg	74,322,562kg
取扱金額	8,337,064,048円	13,265,055,820円	21,602,119,868円

〈収 支〉

収益的収支

(単位 千円)

収入計 353,781



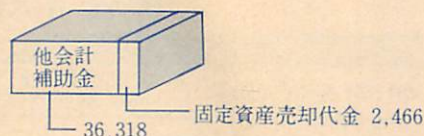
支出計 321,272



収入計353,780,908円－支出計321,271,812円＝差引 32,509,096円

資本的収支

収入計 38,784



支出計 72,635



収入計38,783,854円－支出計72,635,133円＝差引 △33,851,279円

秋の読書週間 (10/27~11/9)

市立室蘭記念図書館 図書館 記念行事

- ◎課題図書読後感想討論会 (中学生の部) 傍聴自由
- ▽日時 11月9日(火) 14時
- ▽会場 市立室蘭図書館
- ▽参加者 市内各校代表生徒
- ▽司会 佐々木志朗港南中教諭
- ▽助言者 山田邦雄成徳中教諭
- ※課題図書 遁走(安岡章太郎)
- ◎蘭の会15周年記念座談会
- 蘭の会発足15周年を記念し、登別・伊達の両市でも行われている読書会の会員を招待し、日ごろの読書会活動について懇談を行います。
- ▽日時 11月11日(木) 10時
- ▽会場 市立室蘭図書館
- ▽参加者 登別市(きりんの会、あひろの会)、伊達市(読書会グループ)、室蘭市(蘭の会)
- ▽司会 蘭の会 長屋多恵子会長
- ◎57年度選定図書読書感想文入選者表彰式
- 先に決定した入選者に対し表彰状授与。
- ▽日時 11月13日(土) 14時
- ▽会場 市立室蘭図書館
- ◎第7回おはなしむららん
- 市内の地名にまつわる話、伝説、

民話などを歴史的背景とともにわかりやすく紹介します。

- ▽日時 11月20日(土) 14時
- ▽会場 中小企業センター
- ▽対象 小学校4~6年生50人
- ▽講師 稲田洋実高平小教諭
- ▽申し込みは：11月10日(水)から電話で(☎221658) 先着順に受け付けます
- 【詳細】市立室蘭図書館(☎221658)

单身老人福祉住宅

補充募集…1戸

- 入居者は、実態調査の上、決定します。
- ▽募集戸数 1戸
- ▽構造 1DK浴室付
- ▽所在地 舟見町1-11-4
- ▽家賃 1カ月6千700円
- ▽募集期間 11月1日~15日(入居資格)
- (1)現在ひとり暮らしで60歳以上の人
- (2)本市に住民登録をしてから1年以上居住している人
- (3)住宅に困窮し、身寄りがなく、

または身寄りがあっても事情で同居できない人
(4)健康で日常生活に支障がなく、稼動収入などで、家賃の支払いができる人

勤労青少年ホーム

バドミントン講習会

- ▽対象 市内に居住、または市内の企業などで働く青少年
- ▽開講日 11月11日(木)、12日(金)の2日間
- ▽時間 18時~20時
- ▽定員 30人
- ▽用意する物 運動靴(ラケットのある人は持参ください)
- ▽申し込みは：11月5日(金)13時から、直接ホーム窓口で受け付けます
- 【詳細】勤労青少年ホーム(東町1-20-27 ☎41135)

学校開放校対抗バドミントン大会兼第1回室蘭地区ジュニアカップ争奪バドミントン大会

- ▽日時 11月14日(日) 9時
- ▽会場 水元小体育館(ジュニア)、室工大体育館(一般)

市選挙管理委員会から

ご存じですか

郵便による不在者投票

身体に重度の障害があるため、投票日に投票所へ行けない人が自宅などで投票できる郵便による不在者投票制度があります。この制度で投票できるのは、次の人です。

- (1)身体障害者手帳に、両下肢、体幹の障害の程度が「1級もしくは2級」、心臓、じん臓、呼吸器の障害の程度が「1級もしくは3級」と記載されている人
- (2)戦傷病者手帳に、両下肢、体幹の障害の程度が「特別項症から第2項症まで」、心臓、じん臓、呼吸器の障害の程度が「特別項症から第3項症まで」と記載されている人

来年は、統一地方選挙、参議院議員通常選挙が行われますが、より多くの人の貴重な1票が行使できるように「郵便による不在者投票制度」をご活用ください。

異動届をお忘れなく

選挙人名簿は 住民基本台帳から



選挙人名簿には、①年齢満20年以上で、②住民票が作成された日(住所異動者は転入届をした日)から引き続き3カ月以上本市の住民基本台帳に記録されている人が、登録されます。したがって、住民基本台帳に載らなければ選挙人名簿に登録されないことになり、名簿に載らないと投票できなくなりますので、住所を異動したときは、お忘れなく住民登録の異動届をしてください

【詳細】市選挙管理委員会事務局(☎226723)

明るい選挙推進 書道展示会

- 市内小・中学校児童・生徒の作品を展示します。
- ▽期日 11月19日~21日
- ▽会場 室蘭ファミリアーデパート桐屋



▲神社：絵鞆小5年 小林 昭子

建物の色の調子がよく出ていて大変きれいです。また細かなところまできちんと描けているので、すばらしくよく出きあがっています。



▲バス：絵鞆小1年 しぶや り さ

1年生らしく元気よく画用紙いっぱい大きくバスをかいています。色もきれいにえています。



▲ともだち：本室蘭中3年 米 沢 美 和

混色や重色の効果を生かし、色の变化などに注意して描かれています。また、ともだちの特徴もよく表わされています。



▲ともだち：本室蘭中2年 渡 部 健 一

人物を画面に取り入れる構図のとらえ方や衣服のしわなど、デッサンがすぐれています。また、奥行もよく表現されています。

測量山の山肌は秋一色に染っています。秋はまた、鳥達の渡りの季節でもあります。北国で夏を過ぎた鳥たちは、紅葉前線に追われるように、ひたすら南へ向かうのです。雪が降る前に。この春生れた若鳥にとっては初めての試練なのです。長旅のチャンピオンは、なんと云ってもシギの仲間でしょう。カムチャツカ、アラスカ方面で繁殖し、秋には日本列島を通り、赤道を越えオーストラリア、ニュージーランドまで渡る種類もいます。測量山周辺でも少数ですが観察できます。林の中を歩いていると、足許からバタバタと羽音を残して飛び立つのはヤマシギ、長いくちばしでそれと分ります。絵鞆海岸でよく見られるのはキアアシシギ、キョウウシシギ、アカエリヒレアシシギです。キアシシギは、ハト位の大きさで、名

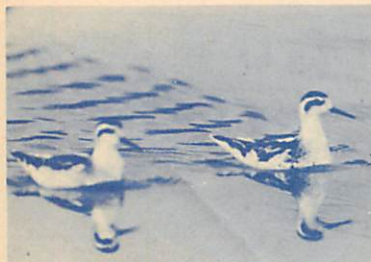
測量山

 自然の仲間たち⑳

旅 鳥

 日本野鳥の会会員

本 多 進 (写真も)



アカエリヒレアシシギ(冬羽)：絵鞆海岸

前の通り足が黄色、体を水平にしたスマートな姿勢や、ピューイと鳴く声に特徴があります。キョウウシシギは、京女になぞらえて付けられた名前、よく目だった黒っぽい模様は、他のシギと見誤ることはありませんが、悪声でギョ、ギョ、ケレ、ケレと聞えます。最も多く飛来するのがアカエリヒレアシシギで、数千羽の大群も珍しくありません。セキレイ位の大きさで、夏羽では頸(くび)が朱く、ヒレ(水かきではない)のある足で上手に泳ぎ回りエサを取ります。人を恐れず、釣り人の竿の下まで寄ってくる愛きよう者です。古老は海ズズメと呼んでいました。シギ達の去った海は、日増しに季節風が強まることでしう。



冬の燃料を
考える

経済的な コークス、石炭

私たちの家庭で暖房や風呂用に使う燃料は、大部分が灯油です。ところが、最近ではこの灯油がどんどん値上がりして、10月の市内平均価格は、1ℓ当り96.6円となりました。

灯油は最も便利な家庭用燃料ですが、高い価格が影響して灯油より経済的なコークスや石炭に切り替える家庭が増えてきました。

しかし、コークスや石炭は、点火や消火の手間、保管場所や燃えながら処理などから簡単に切り替えられない家庭もありますが、今一度灯油の節約や安い燃料への転換を考えることが必要な時節となってきたのではないのでしょうか。

消費生活相談は…

消費生活センターへ

これまで市役所1階にありましたが消費者相談室は、10月1日から輪西地区サービスセンター内に移

転し相談を受け付けています。

▽時間 10時～16時

▽開所日 月曜日～金曜日

(祝日、年末年始を除く)

▽電話 (44) 2133

不用品ダイヤル市
情報 ☎ 235000

10月18日現在

▽譲ります ベッド(ダブル・セミダブル)、長いす、ペーパー

ス、ペーパーラック、ゆりかご、電子炊飯ジャー、電気コンロ、

ストーブ(F.F式、ルンペン)、8ミリカメラ、米びつ、車用小

型掃除機、編機、都市ガス用2口コンロ、プロパン用風呂釜と

浴槽、和文タイプライター

▽譲ってください 机、コーナー

いす、食卓テーブル・いす、ベッド(シングル・2段・ペーパー

婦人用バイク、自転車(男児14

16インチ・サイクリング)、

ブランコ、三輪車、リヤカー、

歩行器、エレクトーン、コタツ、

カラーテレビ、冷蔵庫、洗濯機、

もちつき器、ステレオ、あんま

器、ストーブ台、ストーブカバー、

ド、ミシン、石油ストーブ(反射、壁置式)、

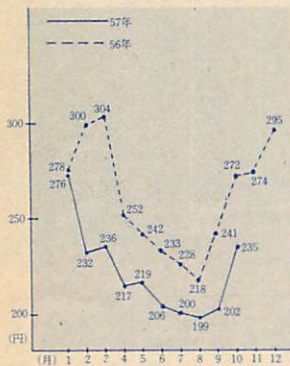
灯油タンク、電動のこ、うすときね、ぶらさが

り健康機、剣道防具、プロパン

用瞬間湯沸器

用瞬間湯沸器

鶏卵の値動き

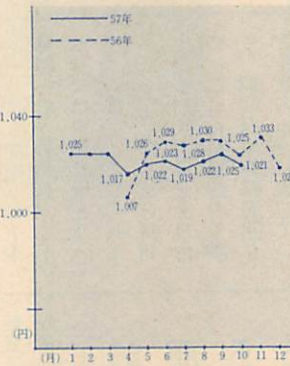


〔鶏卵〕

1ケース10個 中玉

今年の1月から昨年を下回る価格で下がり続けていましたが、今月になって33円高くなりました。対前年同月比で37円・13.6%安くなりました。

洗濯用合成洗剤の値動き

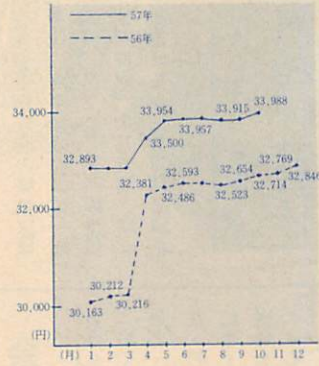


〔洗濯用合成洗剤〕

2.65kg無リン衣料用粉末粒状箱入り

56年度から新しく調べている品目ですが、今年になってから昨年と比べて安値で推移しており今月も対前年同月比、対前月比共に4円・0.4%安くなっています。

暖房用石炭の値動き



〔暖房用石炭〕

1t中塊 一般炭 店頭価格

今年の春にかけての値上げの後は、安定的に価格が推移していましたが、今月是对前月比で73円・0.2%高くなりました。

モニターの目

値動き

市消費生活モニター調査 ⑭

市民法律相談

毎月第2、第4土曜日

▽相談日・相談員

11月13日 芝垣美男弁護士

11月27日 土井勝三郎弁護士

▽時間 9時30分～12時

▽受付 予約制ですので、必ず事前にご連絡ください

▽申込先 広報広聴課市民相談室

(☎ 22) 1111 内線 4116

「ご協力ください」

街頭献血

▽11月11日(木) 長崎屋室蘭中島店前

▽11月17日(水) 室蘭生協高砂

▽11月23日(火) ぎんやデパート前

▽11月24日(水) 室蘭生協白鳥

台ストア前

※時間は、いずれも10時～12時、13時～16時。

訂正

本紙10月15日号2ページの市功労者の記事で、伊東三夫さんを「室蘭水先区水先人」と掲載しましたが、室蘭水先区水先人の誤りです。訂正し、深くお詫びします。

市史コーナー

明治の新聞から 市史意外史 ②

砂鉄の溶解、世界に例はない

北炭の輪西製鉄所

明治四十二年九月三十日付「函館日日新聞」に「輪西製鉄所現況」製鉄所長江藤捨三工士談が掲載（連載もの）されている。九月三十日といえは熔鋸炉の故障のため、この日から五ヵ月間の予定で操業休止（実際は大正二年まで）に入つた日である。この休止当日に江藤が自信満々次のような第二溶鋸炉建設計画を新聞紙上に発表しているのだから皮肉である。

△砂鉄溶解は世界に例なし。彼の歐洲に於ては年々鉄の需用増加し随分製鉄業は盛大であるが、砂鉄を溶鋸炉に入れて溶解するは未だ世界に其の例を見ず、随つて各専門の学者等は砂鉄溶解は不可能として砂鉄は放棄せられて居つたのであるが、余は最初より種々研究

の結果、決して砂鉄は溶解し能はざる者ではないと言ふ確信を以て事業に着手し、溶鋸炉に点火し、着々其の研鑽の結果を遂行したが果せる哉、其結果は予期以上の好成绩にして最初は混合の程度五割以上は困難ならんと思ひしに今では七、八割迄溶解し得べきことを發見した。過日鋸山監督の細井技師も来りて其の鉄鉄を視察され

たが、氏は専門学者間に知名の人にして今や学者間に砂鉄溶解は不

重し居れり是れ畢竟獨逸商人が今日の勢力を得たる所以なれば我商人にして對清貿易に従事し居る者は勿論將來其業に従事せんとする者は宜しく微細の点に思慮を費して先づ其品位性情を高尚にせざる可らず

輪西製鉄所現況

製鉄所々々長江藤工士談。△砂鉄溶解は世界に例なし。彼の歐洲に於ては年々鉄の需用増加し随分製鉄業は盛大であるが、砂鉄を溶鋸炉に入れて溶解するは未だ世界に其の例を見ず随つて各専門の學

室蘭海軍鎮守府の管轄区域

屯田中隊の演習と
塵別校のこと

明治二十三年二月三日の勅令で、室蘭に第五海軍鎮守府がおかれ、二十六年には軍港指定となつたことは、よく知られて

いるが、北海道毎日新聞は二十一年二月十七日付で、これら指定前の予測や、鎮守府の管轄範囲などを次のように報じている。

○各海軍鎮守府の管轄区域
我國の海軍鎮守府は第一横須賀、第二呉、第三佐世保、第四舞鶴、第五室蘭と略ぼ決定せしが、其管轄区域を聞くに（略）



可能と言う
説は打破されたのである。略）
△目下の製鉄、當時は三時間毎に製鉄の釜出をするので殆んど昼夜兼行、不眠不休、一日の製鉄量は五十噸内外はある。本道は砂鉄が

第五鎮守府は、陸中（岩手・秋田）、陸奥（青森・岩手）の国界より津軽海峡、羽後（秋田・山形）陸奥国界に至るの海岸及び北海道

諸島の海岸を管轄する筈なり。とあり、北海道および東北北羽越にかけての北辺警備の任務が負わされていたことがわかる。

室蘭をはじめ有珠、虻田、幌別郡内における「お金の」の流通の状態を書いている明治二十年九月中の「銅貨及銀貨流通の景況」によると銀貨が不足していたようである。銀貨は十銭、二十銭、五十銭銅貨は五厘、一銭、二銭。

余る5厘銭 足りない10銭・50銭

室蘭・有珠・虻田・幌別郡とも各種銀貨流通不足。新銅貨一銭、二銭の銅貨は甚だ不足なるも、五厘銅貨は多きが如し。打歩は取引上不便がある。打歩は無之

注・打歩は貨幣と紙幣との間に生ずる価格差とか、銀行の送金為替の手数料などをいう。（『北海道毎日新聞』二〇年二月二日付）
また、一方、室蘭屯田兵中隊の行軍や演習などの記事も二、三みかけたので、あわせて紹介する。

○室蘭通信（通信は十七日付、新聞は二〇年一〇月二〇日付）、過る日曜日は好天気にて有しかば室蘭屯田兵中尉某氏は、兵士数百余人を引率して塵別村より室蘭港に至る凡二里許の所に於て行く（練兵を為し、室蘭山中勇太郎方（旅館）に於て昼食せられたるが、行軍の様子は左も勇ましく子弟をして大に國家の干城を尊重するの念を起さしむ。

（二十一年三月二十八日付）

○室蘭屯田兵 中隊が春季野外演習の爲め、去十八日当地（注・札幌）に來りたる由は、其節の紙上に記せしが、同二十一日当地を出発して帰途に就き、同夜は千歳郡千歳駅に一泊し、翌二十三日は勇私郡苦小牧駅に宿泊し、翌二十四日に帰營せしなり。又同隊は帰營の途中、白老駅近傍及勇私植苗村字沼の端に於て発火演習を施行せしとか。

○塵別学校（二〇年一〇月五日付）室蘭郡輪西村塵別学校は是まで微々たる者なりしが、今般屯田兵中隊本部に於て校舎を新築し落成のうえ之を人民（屯田兵部落）に下渡されたれば、堂々たる一学校となれり、又人民よりも大分寄附ありし。